

同じ汗をかくなら、「世界No.1」を目指そう～あなたへのエール

株式会社 ワールドテック 代表取締役 寺倉 修 (F50)

「ごきそ」との縁

会誌「ごきそ」500号発刊おめでとうございます。

ごきそのご縁ですが、**弊社の広告を掲載いただき10年近くなります**。裏表紙の広告欄です。2016年には「交流コーナー」に「設計力」と題して投稿しています。さらにさかのほれば、2009年の夏、名古屋工業会館で「名工大OB企業創設者座談会」が催され、企業創業経験者の一人として参加、その座談会の様子がごきそに掲載されました。などなど。



名古屋工業会館で
「名工大OB企業創設者座談会」2009年夏
右から3人目矢印が筆者

開発設計はチャレンジと失敗の連続

さて、会誌名がごきそへ改題された翌年、昭和46年の受験会場。木造の床がミシミシと不安を煽^{あお}った。建屋は東門の付近にあった。今は駐車場。その場所に車を停めると、思いは走馬灯。

入学式の日、乗馬クラブの声に誘われ、馬にまたがり「良い眺めー」。気がつけば、旧講堂（今はNITech Hallに一新）。壇上では、席順筆頭のA君が、右代表で計測工学科卒業証書を受領していた。

父が経営する町工場で3年。その後、計測科恩師にご尽力賜り、デンソー（当時、日本電装）で自動車部品の開発設計のスタートを切りました。30年近くに及ぶ、怒涛の日々の始まりでした。

こうでした。開発設計についていくのに四苦八苦（まさに波また濤）。何年か経つと、無謀にも新技術を見出し、それを製品化するという、チャレンジにのめりこんだのです。新製品の開発というと誰々君と、言われていたとかいないとか。

数多くの製品を手掛けましたが、失敗の連続。**「チャレンジは失敗がなければ、成功もおぼつかない」**「チャレンジしなければ失敗もない、鳴かず飛ばずということだ」と自分で納得の日々。

運よくというか、素晴らしい上司に恵まれ、前向きな失敗は加点評価（だっと思ったんですが）。かなり自由に、やりたい開発が行えました。24時間、365日、開発設計（決して褒めたことではない）のような日々。

53歳で、宮仕えから足を洗い独立。脱サラは創業3年でつぶれるとの定石から逃げるべく、毎日終電。時間だけが平等でした。

今は、100名のデンソーなどのOBと共に、**ものづくりのボトムアップに取り組んでいます**。弊社のビジョンは、「新たな価値と感動を想像し、素晴らしい笑顔と生き甲斐を、全ての中高年に実現する」。

巻頭で述べましたが、ごきそに弊社の広告を継続しています。多くの方に支えられてきたお蔭と、感謝の限りです。

「世界No.1」を目指そう

ここまでお読みいただいた方にも感謝。しかし、後輩の方々や学生諸子に、お伝えしたいことはここからです。もう少し我慢してお読み願います。

上記のように、開発設計は失敗の連続でしたが、多くのことを学びました。むしろ、悟ったと言うのがしっくりきます。その中の一つが、このタイトル「同じ汗をかくなら、世界No.1を目指そう」です。こういうことです。**ものづくりは、自分の思いをもので表現し、お客様の笑顔を実現する。やりがいのいっぱい詰まった世界です。**だが、楽ではありません。同じ汗をかくなら、地域、日本、いや世界No.1（品質やコストがダントツ）製品を目指して欲しいと思います。

あなたは、世界No.1を目指して取り組める立ち位置にいるのです。あなたの思いこそが、世界No.1になるかどうかの鍵です。「**世界No.1を目指そう**」**と思うこと、それがスタートラインを切る**ことです。逆に、あなたがそのように思わなければ、世界No.1は地平線の^{あなた}彼方に遠のいていきます。

世界No.1は大げさなことではありません。身近な取り組みです。私は経験しましたが、コイン1、2枚のコストでできる、部品点数が少ない簡単な技術から成るものでも、世界No.1を狙えるのです。

担当している製品を、世界No.1にするという思いを持って見てください。きっとものはあなたに語り掛けます。世界No.1の切り口を。

世界No.1を目指しても、達成できるとは限りません。しかし、たとえ達成できなくとも落胆することはないのです。そのチャレンジは次の取り組みの糧になります。それは、あなた自身を成長させ、次の取り組みを成功させる原動力になるのです。

実際に世界No.1製品を目指した人、あるいは、より良いものを世の中に出そうと情熱を持ち、新たな目標に向かってチャレンジした人で、現在は当社メンバーの方々に聞きました。ものづくりにはどのような姿勢や心構えが大切かを。取り組んだ部品や製品は違っても、ものづくりへの思いは、皆同じでした。それは、「常識にとらわれない/事実をしっかり把握する/自分で考え抜く/できない理由ではなく、どうしたらできるかを考える/まずはやってみる/失敗を恐れず、チャレンジする/失敗は貴重な財産、多くを学ぶ/迷ったときは、苦しいほうを選べ…」

奇をてらうような言葉は、一つもありません。誰もが聞いたことがあり、そうありたいと思っている言葉ばかりです。

「ものづくりの本質」が、これらの言葉に隠れています。ものづくりとは、特別な取り組みを行う場ではなく、目標を高く掲げ、原理・原則に^{のっと}則って、地道に、着実に、一步一步、すなわち愚直に取り組むものと、私は信じます。このような思いを持って、あなたは世界No.1を目指して欲しいのです。なぜ世界No.1を狙うのか。「そこに世界No.1があるから」です。

最後になりましたが、**名工大出身者の世界への挑戦と活躍を願っています。**

■筆者紹介

1975年 名古屋工業大学計測工学科 卒業
1978年 株式会社 デンソー（当時 日本電装）入社
2005年 株式会社 ワールドテック 代表取締役
現在に至る

●著書

- ・「設計力」こそが品質を決める（2020第9刷）
- ・「設計力」を支えるデザインレビューの実際（2018第4刷）
- ・「設計力」こそがダントツ製品を生み出す（2018）以上、日刊工業新聞社
- ・開発設計の教科書（2019）日経BP社

●日経 x TECHコラムに、「設計力の魂」を連載中（第78回目掲載済み）

<https://tech.nikkeibp.co.jp/atcl/nxt/column/18/00036/>

●中部経済新聞に、「設計力」を連載中（第42回目掲載済み）

